

ふるさと起業家育成フォーラム

農村六起人材育成事業を通じた グリーンライフ・ツーリズムと創造産業の創出

去る8月27日、北海道大学学術交流会館で「ふるさと起業家育成フォーラム」が開催された。本フォーラムは、内閣府の「地域社会雇用促進事業」として採択された、認定NPO法人ふるさと回帰支援センター及びふるさと起業塾の「農村六起ふるさと起業家育成事業」の一環として、同センターと北海道地域パートナーを結んでいるNPO法人グリーンライフさっぽろ（GLS）、ならびに北海道大学と札幌市立大学を中心に進めている北海道ソーシャルビジネス・創造産業研究コンソーシアム結成準備委員会が共催した。

フォーラムは、基調講演とパネルディスカッション、起業家のためのビジネス講演、ビジネスプラン・コンペティション開催に関する説明の三部構成で行われた。

冒頭の挨拶で石森秀三北大観光学高等研究センター長は、「1953年に45%を占めていた農業従事者人口は、2004年には高齢化とともに減少、全体の4.5%となった」「1953年に60%を占めていた自営業者とその家族従業者は、2004年には15%に激減した」というデータをあげ、日本全体で様々な劣化現象が進んでいる原因のひとつに、企業や団体に所属する依存型の人間が増えたことがあるのではと分析し、農村の6次産業、人材育成事業が推進されなければならない多重的な理由を解説した。

続いて挨拶した川辺紘一氏は、「都市の劣化を補い、農山漁村を再生させるためには、雇用から起業へと向かう流れが必要だ。そのために『ふるさと起業塾』を全国に作ることを、各方面に提案してきた」と語り、「都市の人が行きたいナンバーワンが北海道だ。その願望が実現できる仕組みを、民産官学協働でつくっていき」と述べた。

基調講演

グリーンライフ・ツーリズムと二地域居住の促進 ～循環・持続のなりわい興し～



佐藤 誠 氏
北海道大学観光学高等研究センター教授

循環・持続のナリハビ 縄目文様は、異なる二つのものが結ばれるといのちが産み出されるという思想を土器に刻んでいる。暮らしといのちの循環・持続のグリーンライフへの祈りそのものである。

結ぶ力 ツーリズムには、異質の分子を結び合わせて新たな高分子を創出する触媒機能がある。異なったものを結んで新たないのちを産み出すツーリズムのイノベーション力に着目し、都会と田舎を往来するセカンドホームツーリズム、食・健康・医療をキーワードにスローフードやヘルスツーリズムなどの多様なツーリズムを興すとともに、暮らしの必要を充たす経済を、一次・二次・三次産業の複合化を通じて実現したい。

現代的な「なりわい」 現代日本において、「仕事」の85%が「雇用」（ジョブ）であるが、会社や役所が雇用を増やす状況にないので、高度成長期以前には6割を占めていた農家、自家営業者や大工・左官、手工芸者等多様な「なりわい」を興す必要がある。これを可能にする経済活動が起業である。社会的起業家と、それらをサポートする地域マネジメント法人の働きが重要な意味を持つ。



パネルディスカッション

提言1：創造産業とソーシャル・ビジネス、起業のすすめ



武邑 光裕 氏
札幌市立大学教授

現在世界的な潮流となっている「創造産業 (Creative Industries)」や「社会的起業 (Social Entrepreneur)」の観点から、現代の創職・創業を考えたい。

ソーシャル・ビジネスの先進国である英国における社会的起業の国内事業者数は約6万2千社、市場規模は約240億ポンド (約3.2兆円)、雇用規模は約80万人といわれている。

社会的企業は、営利企業とは異なり、自社の利潤の最大化ではなく、社会的課題の解決をコアミッションとし、その達成を最優先するのが基本的特徴である。その新しいビジネスモデルは既にオープン化しているため、これまで市場から排除されていた社会集団、個人がこれを模倣して、市場に参加する現象が起きている。新たなビジネス・パラダイムの登場である。

現代の社会的包摂 (Social Inclusion) 1990年代、ヨーロッパ諸国では、家族や地域社会、企業における従業員の家族意識といった、互いを支え合う基盤が崩壊した。若い失業者、低所得者、外国人、ホームレス、薬物中毒者などを社会から排除しようという動きが顕著となったために社会不安が増大し、こうした事態が続けば、国家の崩壊にまで行きつくという危機感から、彼らを孤立させずに、社会の中に包摂しようという政策理念が起きた。人が社会とつながりをもって生きていくために最も必要なのは、「仕事を持つ」ことである。

社会的企業 (Social Business) ・ 社会的起業 (Social Entrepreneur)

ソーシャル・ビジネスを有名にしてきた世界のリーディングカンパニーは、今や世界的なグローバル企業に成長している。ソーシャル・ビジネスが、大型の既存産業に与える影響は非常に大きい。

社会的企業の現在 未来のソーシャル・ビジネスモデル

は、経済学とヒューマニズムとの連携といわれ、社会的、社交的な資本主義ともいわれている。企業倫理と責任は最近重視されるようになってきているが、社会的企業は単なる利益の還元や博愛、慈善ではなく、伝統的起業の世界環境における生存力の証であるといえる。その多くが、食品産業、環境、農業、銀行業、製薬品、バイオテクノロジー、ICT、デザイン及び創造産業の新分野を先導している。また、社会的企業の環境、デザイン新分野で活躍するクラフター (手工業者) による経済力学はとて大きい。特に、調理士 (六味のマジシャン)、裁縫士 (流行のパイオニア)、皮細工士 (皮革のスペシャリスト)、錬金術師 (黄金のドリーマー) に注目してほしい。彼らはなぜ、こうした仕事に関わるのか。

啓発された利己主義 アマチュアの制作意欲を動機づけるのは、お金でなければなんだろうか。啓発された利己主義 (アダム・スミス) こそ、人間の最も強い力である。「人々が無償で何かをするのは、ほとんどの場合、自分の中に理由があるからだ。それは楽しいからであり、何かを言いたいから、注目を集めたいから、自分の考えを広めたいからであり、他にも無数の個人的理由がある (クリス・アンダーソン『フリー』)」。従来の市場の原理を超えて、新しい価値観に基づいた関係をつくろうとする人々が増大した。

知識経済 (Industrial Economy) は創造経済 (Creative Economy) へ

20世紀の企業価値は転換期にある。マス・メディアとマス・マーケティングが終えんし、ソーシャル・メディアとコミュニティ・マーケティングの時代へ、劇的な変化の時代になる。今問われていることは、21世紀における「創造経済」の新機軸をどうやって理解していくのか、ということだ。個人の創造性・スキル・才能から生まれる知的資産が雇用を促進する社会、創造経済へ急速に移行するだろう。

20世紀を支えた「規模の経済」から、「個の経済」へ移行していくことが問われている。創造性とは、人間の頭の中にある。国、地域、企業が尽くすことがで

きるベストは、創造性ある人々が滞在したくなるような環境をつくることだ。日本では「公」という言葉は国や行政、国家などと故意に混同され、「私的領域」というものを抑圧してきた。しかし「私的領域」こそが、パブリックを創り出す原動力である。ソーシャル・ビジネスはそれを教えてくれる。

提言 2：美しい村運動の理念と新しい農村産業の創出



浜田 哲 氏
美瑛町長

私は美瑛町長に就任して、今12年目4期目である。民間の出で、技術系大学を卒業し、田舎で泥にまみれて道路関係、建築関係の現場を生きてきた。会社を仲間と立て、150名ほど雇えるころ、町議会議員選挙に出た。36歳だった。議員を8年やって、会社を辞め、46歳で「1万2千人ほどの町だが、どうして勝ち目のない選挙にでるのか」といわれた町長選挙に出て勝たせていただいた。

役場に入ってみると、役場は国の出先のような感じだ。国と町の関係は、上級の機関が予算を組み、町は承認するといった、民間から来た人間には考えられないもので、しかも、財政は破たん寸前だった。

町長として、自分が町に何ができると悩んだ結果、「町を経営してみよう」と考えた。札幌が大企業なら、美瑛町は中小企業だ。中小企業の経営として一番重要なことは、大企業、社会とつながるとき、他にない技術力をもっているか、資源は何かということだ。美瑛町にとっての資源は何か。私たちが価値として認めた美瑛町の景色を、もう一度再生しよう、その町づくりを世界のどこにもない強みにしようと考え、フランスの美しい村に実際に自分一人で行ってみて、「美しい村」をつくる活動を、7つの町や村から始めた。満5年が過ぎ、今や全国、39の町や村に広まった。私は、「この活動で、東京と距離ができればできるほど、我々の活動は意味がある」と職員に言っている。

美瑛町の農業を次の時代の農業として耐えうるものにした。だから新規就農者、二地域居住の受け入れ、美しい村をテーマとした活動、企業誘致などを進めている。農業植民地としての北海道の地位に甘んじることなく、我々の作ったものを、本当に価値のあるものとして提供したい。美しい村の形の中に、農業、観光、新しい暮らしの提案をしていく活動をしていきたい。

提言 3：環境創造都市・札幌におけるグリーンデザイン



吉田 恵介 氏
札幌市立大学教授

都市は時代に従って成長と収縮といった盛衰により形態が変容する。例えば、コミュニティの概念は、これまでの地縁血縁社会から、ITや映像による多様なメディアの影響や、共通する価値観による人と人とのつながり方へと変化してきた。このようなコミュニティ

が、札幌市のように急速に膨張した都市、激しい人口動態の変化の中で、「まち」と呼ばれる地域社会を形成する大きな存在になった。

札幌は2008年に環境首都宣言を行った。これからのまちづくりの大きなキーワードは、「環境」である。さらに、自分の住む好きなまちにこれからも住んでいくことを考えると、地域づくりを支える「なりわい」と環境を、札幌の特質である観光・健康、そしてアジアとのつながりの中で考えることが重要だ。

グリーンデザインの事例紹介 今回のフォーラムのテーマである農業の六次産業化の関連から考えてみたい。農業生産物・加工物やそれを取りまく環境からどのような「なりわい」が生まれてくるだろうか。

(事例1) 新しいコミュニティとエディブル・ランドスケープ

ロンドンの2012年オリンピックに向けた街づくりのテーマは、「食べられるまちづくり」である。ロンドンのコミュニティガーデンは、都市の中で空き地を借りて始まった様々なコミュニティが運営する「食べら

れる第二の公園」だが、美しさという視点から他国の事例を大きく超えている。それ以上に、新しい地域コミュニティの創造と若者の雇用促進の実習園になっている場所が多いことが特徴的である。

(事例2) スモールビジネス ポートランドの例では、郊外の中小農家の自立化を図るため、ファーマーズマーケットが毎週開かれている。最初は小さな直売所であったが、地産地消や有機栽培にこだわった品ぞろいで現在では市域小売の5%を占める。

(事例3) 札幌市はたべものを生産する大地 札幌市は市域の60%以上が山林、農地などのみどりに覆われているが、耕作放棄地（平成20年調査では耕作放棄地113ha、農地2800ha中の約4%、市民農園約4万人分）や不作地が多い。特に農業従事者の農業離れや高齢化により、多くの耕作可能地がある。しかし、食べ物を生産する場所は農地だけではない。農地以外に「食べられる商品」を生み出す人と大地（ランドスケープ）に着目しよう。

これからのグリーンデザイン 今後の札幌のグリーンデザインはどうあるべきか。農業をする環境の土・水・風といった地域ごとに違う地域資源の基盤要素に根付いた「なりわい」を重要視したい。例えば、今年の札幌市の緑の基本計画が「身近な緑から森までつながるみどりの計画」に進化したように、都市空間のデザイン全体に対して、農業、園芸、造園、料理などと分化され、専門化されてきたものを、個人や家族の生活を中心に様々な「みどり」を有機化・総合化する。そういう時代になった。

*

佐藤誠教授の基調講演は、縄文世界と現代との往来や、都市と農村をつないで、都市の活力を農村のなりわいへ結実させ「足元の幸せの青い鳥=美しいムラで暮らしの自給を図ろう」との、居場おりば（居るべき場所）を求めて苦悩する人々への呼びかけであり、近未来の空間的ユートピア形成の提案であった。その社会事業をともに担う各界人へのエールでもあった。

武邑光裕教授からは、新しいビジネスモデルである社会的起業が、歴史社会的にどこから生まれてきたのか、今度どのような展開が予想されるのかについて、豊富な事例に基づき解説がなされ、特に若い人々に向けて、デザイナーやクラフターとして、創造産業へ起業によって参画するように誘う強烈なメッセージが語られた。

浜田哲美瑛町長からは、世界のツーリストに選ばれ、愛される美瑛という町がいかにかできたのかが躍動感に満ちた肉声で伝えられた。首長のリーダーシップと情熱によって、美瑛町の理念として掲げる価値が、町の景観形成と農業振興事業として、今まさに創り出され、世界に向けて発信されている。

吉田恵介教授は、札幌という都市の特徴を精密に分析した上で、農・食・ランドスケープ・スモールビジネスなど、都市型の産業構造的要素を複合し、グリーンデザインを創造する工夫を提示した。現在の状況を等身大で変えていこうとする人に、勇気を与えるプラクティカルな事例が示された。

*

本フォーラム第2部では、起業を意図する人々を対象とした、臼井冬彦北海道大学観光学高等研究センター教授の「アイデアからビジネスプランまで」と題するビジネス講演が行われた。第3部では、藤根鍾治NPO法人GLS理事長から、内閣府の地域社会雇用促進事業として行われるインターンシップ並びにインキュベーション事業について、詳しい説明があった。

地域の課題を、収益性をもって解決し、自らのなりわい・職も創造し、地域コミュニティも社会そのものも創造することは可能だ。魅力ある創造産業を通して社会を蘇生させる社会事業や起業を志す人が一人でも多く生まれることが期待される。

(北海道大学大学院観光創造専攻博士課程・NPO法人グリーンライフさっぽろ副理事長 加藤知愛)

※ ふるさと起業家育成フォーラム動画

前編 <http://www.ustream.tv/recorded/9174319>

後編 <http://www.ustream.tv/recorded/9175541>

※ NPOグリーンライフさっぽろHP

<http://glsapporo.net/>